

上雷古銭と涌元古銭

—古銭の比較から中世知内の様子を探る—



上雷から出土した古銭（一部）

発表内容

上雷古銭と涌元古銭

1. 昨年まで研究していた涌元古銭について
2. 今年おもに研究をした上雷古銭について
3. 上記2つの古銭の比較・考察



昔の上雷の雷公神社

涌元古銭と賀張古銭

発表

 函館工業高等専門学校
 埋蔵文化財研究会

Shiriuchi Town Museum Shiriuchi Town Museum Shiriuchi Town Museum

日時会場

12月12日 2015 開講
日(土) 午後1時30分～
知内町郷土資料館（ふれあい工房）

- ☐ 主催／知内町郷土資料館
- ☐ 協力／函館工業高等専門学校
- ☐ 後援／道南ブロック博物館施設等連絡協議会

自学自習の場

 しりうち
 知内町郷土資料館

〒049-1103

北海道上磯郡

知内町字重内 31-47

TEL 01392-5-5066

http://www.d1.dion.ne.jp/~hougen/

1. 涌元古銭について

知内町涌元地区で道路工事の際に出土した一括出土銭で、2006年に知内町在住の工藤勇治氏が、知内町郷土資料館に寄贈したもので、銭種（古銭の種類）は現在わかっているだけで28種類で総計996枚、組成は唐銭から明銭で、最新銭は宣徳通寶である。およそ15世紀の終わり頃に埋められたものと考えられており、日高町で発見された^{かばり}賀張古銭と古銭の組成がよく似ているのが特徴である。



一括出土銭とは、もとは埋納銭と呼ばれていたもので、意図的に人の手で埋められたものを指す。埋める際に良い銭貨を選んで埋納されたなどの選択が加えられた可能性が高いという特徴がある。

2. 上雷古銭について



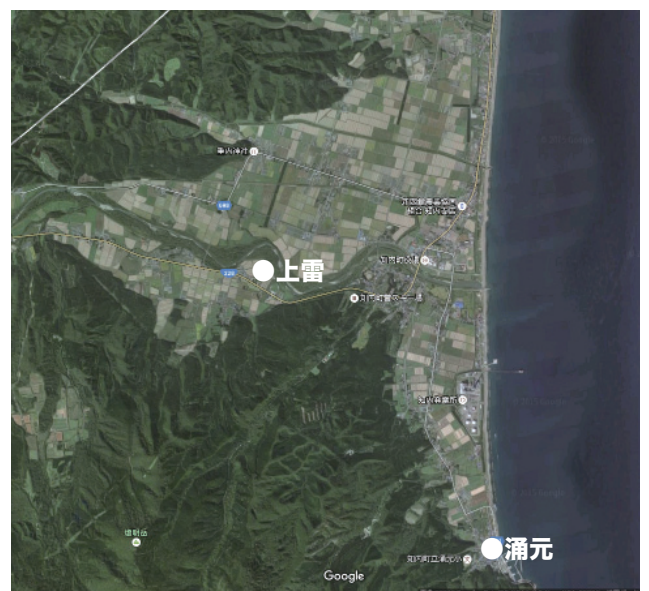
1991年に、知内町在住の橋本政一氏が同町上雷地区で発見したものである。銭種は21種類で、現在の枚数は合計で107枚、組成は唐銭から明銭で最新銭は永楽通宝である。この永楽通宝が最も多く15枚も含まれている。永楽通宝が多いことは、涌元古銭や賀張古銭にも通じる特徴である。上雷古銭は、出土状況を見ればシングルファインドである。

シングルファインドとは、昔の人が落とした銭貨が埋まってしまったもので、当時の銭貨の流通状態を反映している。上雷古銭は、上で述べた涌元古銭の非常に近くで発見されている。北海道では今までに一括出土銭とシングルファインドの古銭が近くで発見された例というのは報告されていないため、今回が最初の例ではないか、と考えられている。

3. 涌元古銭と上雷古銭の比較

我々は当初、上雷古銭をシングルファインドとして考えてきた。たしかに上雷古銭は一枚一枚の古銭が地表に散乱した状態で発見されている。しかし、本当にシングルファインドなら、寛永通宝などの江戸時代の銭貨と一緒に発見されないのは少し不自然である。ここで周辺の現地調査を行うことにした。その結果上雷古銭は、一括出土銭である可能性が高いのではないかと考えるようになり、この仮説の裏付けのためにつぎの方法で検証を行った。

- 年代別の古銭の銭種比率の比較
- 金属成分による比較



(1) 年代別の古銭の銭種比率の比較

上雷古銭と涌元古銭の銭種の比率を年代順に表示したものを図1に示す。2つのグラフはよく似ているが、よく見ると上雷古銭には宣徳通寶が見つかっていないため、線が途中で止まっている。そこで、宣徳通寶が上雷古銭に一枚でも含まれていた場合を仮定し、このグラフの最後の線を描き足すと図2になる。これを見ると本来シングルファインドであるはずの上雷古銭と、一括出土銭である涌元古銭の2つのグラフが非常によく似た形をしていることがわかる。

図1 年代別の古銭の出土割合

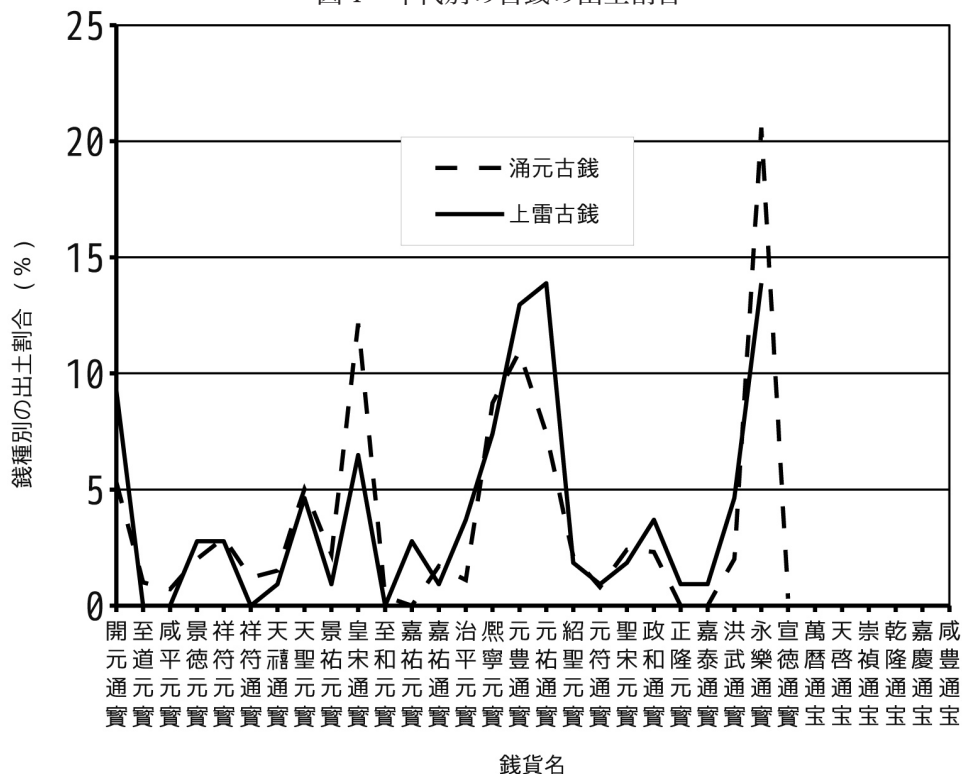
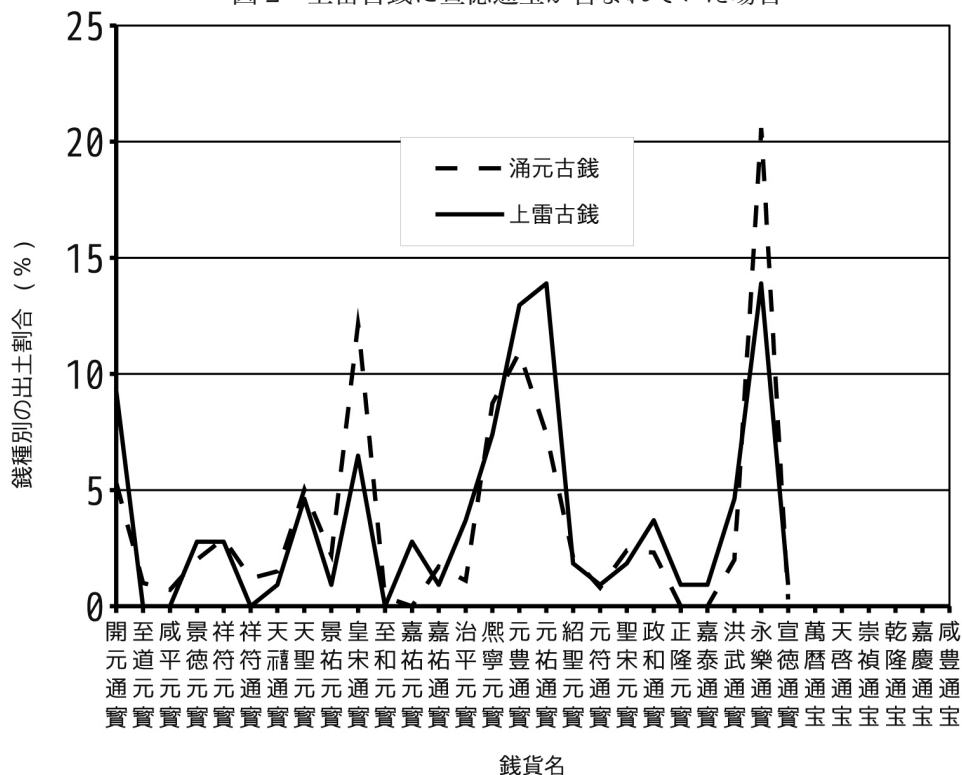


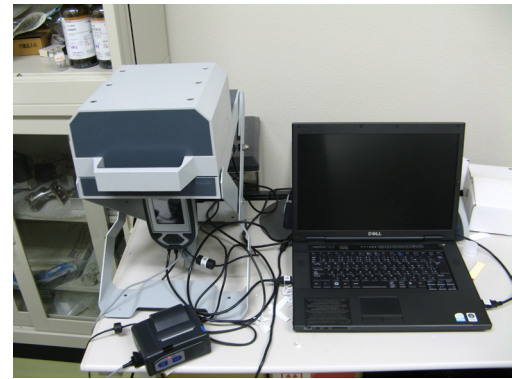
図2 上雷古銭に宣徳通寶が含まれていた場合



(2) 金属成分による比較

金属成分の分析結果を三角ダイアグラムに記す。三角ダイアグラムとは、三つの成分を一つのグラフ上で見ることができるグラフである。

上雷古銭の成分分析の結果をプロットしたものを図 3(a) に、涌元古銭の成分分析の結果をプロットしたものを図 3(b) に、2つのグラフをより詳細に比較するために重ねたものを図 3(c) に示す。図 3(a) と図 3(b) よりプロットの傾向がよく似ていることがわかるが、図 3(c) を見ると大きなかたまりだけでなく、グループ A やグループ B に見られる、かたまりから外れたプロットまで重なることがわかる。このことから、成分分析の面でも上雷古銭は涌元古銭とほぼ一致することが確認できた。



エネルギー分散型蛍光 X 線装置

図 3(a) 上雷古銭の成分分析結果

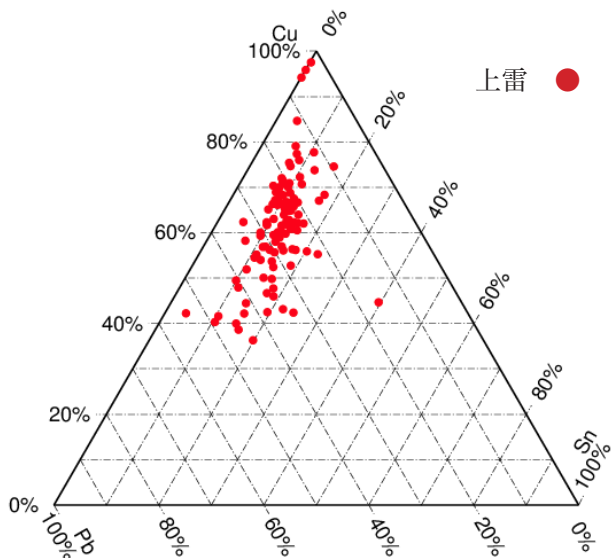


図 3(b) 涌元古銭の成分分析結果

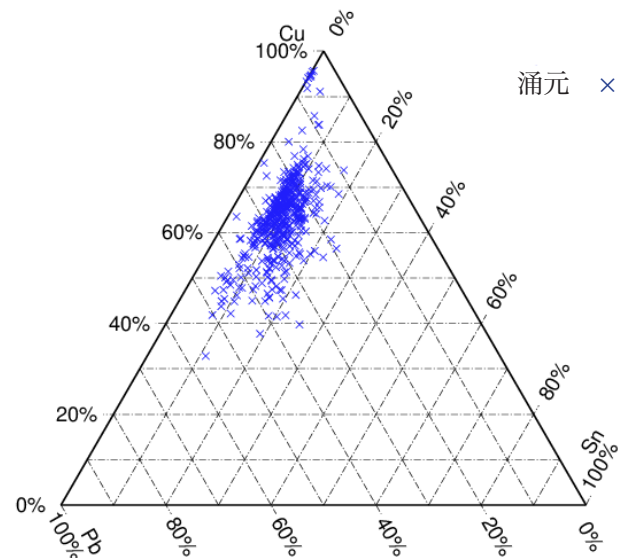
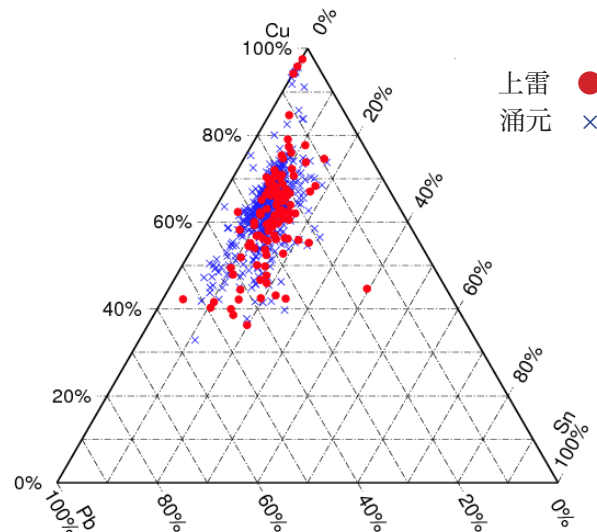


図 3(c) 上雷古銭と涌元古銭の成分分析結果を重ねたもの



4. まとめ

今回の各データや比較・考察をまとめると、

- (1) 上雷古銭の銭種は唐銭から明銭にまとまっており、涌元古銭の銭種と重なっている。
- (2) 成分分析のプロットの集中する位置の傾向が類似している。これに加えて傾向から外れたプロットの位置も一致している。
- (3) シングルファインドが一括出土銭の周辺で発見された前例が北海道ではない。
- (4) 攪拌^{かくはん}されてしまったあとに発見された

などが挙げられる。よってこれらのことから、上雷古銭は涌元古銭と同様に一括出土銭であるという結論に至った。

謝辞

古銭や資料を提供くださいました知内町郷土資料館様、および同館の高橋豊彦先生に御礼申し上げます。エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置の使用についてご指導くださいました、函館工業高等専門学校^{しゅくとく}の小林淳哉先生、銭貨の拓本のとり方などについてご指導くださいました、淑徳大学の三宅俊彦先生に御礼申し上げます。

参考

雷公神社

同社に伝わる本町最古の古文書「大野土佐日記」によれば、元久 2 年（1205）砂金を求めて甲斐（山梨県）からこの地に來た荒木大学が、天下泰平と当所の安全を祈願し、寛元 2 年（1244）大野家の始祖了徳院に命じて賀茂の上社と下社の二社を創建したときに始まると伝えられる北海道で最も古い神社である。古くは上雷地区にあったが、大正 4 年（1915）9 月元町に遷座した。

平成 2 年（1990）に上雷の農家、橋本政一さんが自宅から 300 メートルほど離れた借地を水田から畑にするために大型トラクターを入れ、その後除草作業をしている時、地表に古銭が散乱しているのを見つけた。橋本さんらの話によると、神社の周囲からはそれまでも古銭や古い鉄くずが出土したとの話を耳にしたり、実際見たことがあるという。また、「知内歴史散歩」でも、明治初期の山田農場開墾当時は、ずいぶん金くずが出たものだ、という古老の話が記載されている。



かばり 賀張古銭について

賀張古銭は、1972 年に北海道日高地方の日高町賀張で暗渠排水工事の際に出土した古銭であり、現在は日高町立門別図書館郷土資料館に所蔵されている。銭種は 35 種類あり、総数は 664 枚。組成は涌元古銭と同様に唐銭から明銭まで、最新銭も涌元古銭と同じく宣徳通寶である。

函館工業高等専門学校 埋蔵文化財研究会

埋蔵文化財研究会 web サイト
URL <http://maibun.org/>



上雷古銭と涌元古銭

—古銭の比較から中世知内の様子を探る—

■発行日 平成 27 年 12 月 12 日

■編集 知内町郷土資料館

〒 049-1103

北海道上磯郡知内町字重内 31-47